



地震

昨日から第一回目の面談を始めた。入学したばかりなので、高校入学後の生活の様子や、迷っていること・困っていることがないかといった点を中心に聞いている。ほんのわずかの時間だが、何か担任に知っておいてほしいことや、相談してみたいことがあったら遠慮なくどうぞ。手早く効果的に面談が進むように、事前に記入してもらった面談資料も渡したので、完成させて持参してほしい。

*

ところで、九州の地震は被害が広がり、余震も続いているようで心配である。ご家族の中には、九州にご縁のある方もいらっしゃるのではないだろうか。

今回の地震では、「本震」だと思ったら、それが実は「前震」で、「余震」ならもう大丈夫だろうと思って帰宅された方が、その本震で被害にあってしまったケースも多くあったという。この「前震→本震→余震」というのも、事後的に知られる、つまり、「本震」が認定されることによってはじめて、その前後が「前震」「余震」と決まるのだそうだ。つまり、いつが「本震」なのか、素人には…というか専門家であってさせ、簡単には判定できないらしい。

地震学にはまだまだ開拓の余地があるということだ。「予知」という面からの研究もなかなか難しいようだし、地域社会との結びつきを土台とした「防災」や「被災後」という観点からのマネジメントの学も、これからますます必要とされるだろう。グローバル化による「総合知」の重要性が取りざたされるが、こういう場合にも、広い視野から、つまり、被災した地域と国とを結びつけながら、将来

的な全体像をもイメージした、新たな方向性を示しえるような「総合知」が求められているといえよう。ぜひ、諸君の中からも、そういう分野に挑戦していく人が出てほしいものである。

*

実は、前担任をした卒業生の中に、熊本大学の医学部の進学している者がいるので、ちょっと心配していたのだが、今は便利なもので、Facebook を通じて彼の現状を知ることができた。

それによると、地震が発生した当初は、大学の体育館に避難しつつ、そこに避難してきた地域の方々の世話をしたりして過ごしていたらしい。しかし、余震も続き物資も乏しくなる現状の中で、友だち同士で相談した結果、とりあえず安全な実家に帰ろうということになったという。とは言っても、熊本空港は閉鎖され、新幹線も運休、在来線は大牟田まで行かなければいけないという状況だったらしい。しかし、運良くタクシーをつかまることができ、さらに九州在住の友人の親戚の方にクルマで博多まで送ってもらい、そこから飛行機で羽田に帰ってきたとのことだ。

その Facebook の記事を読むと、本人は現地に残ってボランティア的な活動をすべきだったかも知れないと後悔しているところもあるようだが、慣れない土地で被災している以上、やはり無事に東京に戻ってこられたことを、私は素直に喜んでいいだろうと思う(だから、めったにしない「いいね!」にしておいた…笑)。この経験が、医師となった彼の今後に活かされることを期待したい。